

日本学術会議会長談話

4月8日に、Gサイエンス学術会議共同声明文が「新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る国際協力の緊急的必要性について」として公表され、その声明文及び仮訳を日本学術会議のホームページにも掲示しました。

新型コロナウイルス感染症による感染者および死者が世界中で増え続け、世界各国が対策を講ずる中で、産業活動・社会生活にも深刻な影響を与えつつあります。今日のこの重大局面に鑑み、本声明は、人類が本症を制圧するにあたって重要な六つの観点をとりあげ、日本学術会議を含む15のアカデミーが心をひとつにして本症と戦うことを言明しています。

国際協力および情報共有は、感染症の急速な蔓延に対する極度の脆弱性を持ち、対応能力が低い国や地域で、新型コロナウイルス感染症対策を講ずるために、特に重要です。また、本声明は、流行と対策がもたらす経済的および社会的影響の様々な側面と人道上の差し迫ったニーズを理解・予測し、備えることも急務であると指摘しています。

4月7日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が出され、同法に基づく政府対策本部が設置されるとともに、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県で対策本部が設置されました。感染爆発による医療崩壊を避けることが可能か、予断を許さない状況です。すでに、我が国でも新型コロナウイルス感染症により約100名の方が亡くなられておられます。ご冥福をお祈りします。政府・自治体には必要・十分な流行対策をお願いするとともに、今回宣言の対象となった地域はもちろん、それ以外の地域においても、みなさまに感染爆発とそれに伴う医療崩壊を回避するための行動をお願いいたします。

人類は、これまで、感染症の災厄に繰り返し襲われ、その都度、危機を克服してきました。今回の新型コロナウイルス感染症の流行を、感染症の予防・制圧と医療対策をステップアップし、行政や国民一人一人がレジリエンスを身に付ける機会としなければなりません。日本学術会議は、学術の立場からその社会的使命を自覚し、世界的視野で学術的連帯をとりつつ、様々な立場の方々と協力して感染症の災厄の克服に取り組んでまいります。

令和2年4月8日
日本学術会議会長
山 極 壽 一